

(様式1)

「高校生のための学びの基礎診断」への申請について

2018年6月29日

①事業者名	株式会社Z会ソリューションズ					
②測定ツール名	英語CAN-DOテスト レベル2					
③主な対象者	中学から高校への橋渡しとなる英語力を測りたい、中学レベル～高校初級程度の英語学習者 (CEFR A1～A2レベル)					
④対象教科	国語	数学	英語	⑤測定内容 の区分	基本タイプ	標準タイプ
			○		○	
⑥申請する測定ツールの目的・概要	『英語CAN-DOテスト』は「使える英語力」を測るためのテストです。CEFRとその枠組みを日本の英語教育に適合させたCEFR-Jを成績評価に用いているだけでなく、その理念の一つである「英語で具体的にどんなことができるのか」を表した「CAN-DOリスト」に基づいて各技能の出題をすることで、実際の言語使用の場面に根ざした実用的な英語の力を評価することができます。					
⑦申請する測定ツールの特長・活用例等	1. 「使える英語力」をコミュニカティブに測る英語4技能テスト 受検者が実際に遭遇しうる言語使用場面に基づいた問題に取り組みながら、「知識としての英語力」ではなく、「使える英語力」がどのレベルにあるのかを測ります。 2. 投野由紀夫先生（東京外国語大学教授）監修。CEFR-Jで伸長を可視化 CEFRを日本の英語教育に導入するための枠組みとして開発されたCEFR-Jを用いることで、日々の英語力の伸びを可視化します。 3. 授業に組み込みやすい仕様の英語4技能試験 入学・進級時、授業や留学前後の効果測定などに適した試験時間・価格となっています。また、時間・場所を選ばず受検可能です。					
⑧実施期間、年間実施回数	【実施回数】年間2回 【実施期間】第1回：4～9月／第2回：10～3月 ※期間内にいつでもご受検いただけます。					
⑨実施方式 (CBT/PBT)	「CBT (全技能)」または「PBT (スピーキング以外) + CBT (スピーキング)」の選択可 ※CBT (スピーキング) のみのご受検も可能です。					
⑩試験時間(分)	国語	数学	英語			
				50分 (S : 11分、L : 13分、その他 : 26分)		
⑪受検料	【CBT (全技能)】団体：4,212円 (税込) / 一般：5,054円 (税込) 【PBT (S以外) + CBT (S)】団体：4,644円 (税込) ※一般受検はナシ					
⑫標準返却期間	【CBT (全技能)】個人成績表：受検終了から2週間後 / 団体用成績データ：受検終了から1カ月後 【PBT (S以外) + CBT (S)】個人成績表：受検終了から1カ月後 / 団体用成績データ：受検終了から1カ月半後					
⑬URL(事業者のHPにおける測定ツール紹介)	https://www.zkai.co.jp/assess/					

認定要件への適合性の申告内容について

事業者名:株式会社Z会ソリューションズ
測定ツール名:英語 CAN-DO テスト レベル2
対象教科:英語
測定内容の区分:基本タイプ

I. 出題に関すること

(1) 出題の基本方針

■ 出題方針・測定分野:

『英語 CAN-DO テスト』は、「知識としての英語力」ではなく、「使える英語力」をコミュニケーションに測る英語4技能テストです。英語の「聞くこと」(Listening)に関する力、「読むこと」(Reading)に関する力、「話すこと(やり取り・発表の2領域)」(Spoken Interaction・Spoken Production)に関する力、「書くこと」(Writing)に関する力、語彙・文法力(Vocabulary・Grammar)を測定します。

■ 出題範囲:

英語の基礎段階(CEFR A1~A2 レベル)の学習者に対し、「身近なことやなじみのあるトピックであれば、日常生活で使われる英語を理解し、用いることがどの程度できるか」を測る問題を出題します。

出題範囲としては、CEFR A1~A2 レベルの語彙や文法をベースとし、中学校「英語」や、高等学校「コミュニケーション英語 I」で設定されている目標、内容、言語活動に即した問題を扱います。主に中学校「英語」の学習内容で解答できる出題となっており、「コミュニケーション英語 I」の学習内容は受信技能(聞く・読む)の理解を促進する範囲で扱っています。

■ 難易度・各分野の出題のねらい:

CEFR-J の A1.1~A2.2 のレベルを測定できるように、技能ごとのそれぞれの問題に CEFR-J のレベル付けを行い、レベルに対応した CAN-DO を設定しています。そのため、言語知識・技能だけではなく、CEFR-J のレベルに沿った形で、言語を用いた思考力・判断力・表現力も段階的に測定することができます(例: Spoken Interaction A1.2 では「日常のやり取りにおいて応答することができる」、A1.3 では「質疑応答することができる」を問うなど)。

分野	問題数	出題形式	出題のねらい
Listening	10 問程度	選択式	自分自身や自分の家族・学校などの身の回りの事柄に関連した短い話を聞いて、理解することができるかを問う。
Reading	10 問程度	選択式	自分自身や自分の家族・学校などの身の回りの事柄に関連した短い文章を読んで、理解することができるかを問う。
Speaking	3~4 問	録音形式	身の回りのトピックについて描写するなどの「発表」、基本的な語や言い回しを使った「やり取り」を出題する。
Writing	2 問	記述式	自分自身や身の回りのことに関する短い文章や、メモや手紙などを書くことができるかを問う。
Vocabulary Grammar	各 10 問	選択式	発信技能(Speaking / Writing)で必要となる語彙や文法の力が身についているかを試す問題を出題する。

■ 実施方式:

学校の ICT 環境の状況等に応じて、「CBT(全技能)」または「PBT(スピーキング以外)+CBT(スピーキング)」の選択が可能です。

(2)構成等

①出題形式

分野	問題数	出題形式
Listening	10 問程度	選択式 ※PBT の場合は CD プレーヤーなどによる音声放送
Reading	10 問程度	選択式
Speaking	3 ～ 4 問	録音形式 ※PBT の場合は PC またはタブレットによる録音
Writing	2 問	記述式 ※ 2 ～ 3 文 / 40 語程度
Vocabulary Grammar	各 10 問	選択式

CBT でのご受検には、PC またはタブレットが必要です。

■対応デバイス：

タブレット (iPad)	対応機種：iPad Air/iPad Air2/iPad Pro (9.7/12.9 インチ) /iPad mini2/iPad mini4 OS：iOS9.0 以降 ブラウザ：Safari 最新版 ※iPad (第4世代以前)、iPhone、iPod touch でのご受検はできません。 ※タブレットでご受検いただく場合、専用アプリ (無料) をダウンロードしてご受検いただきます。
PC	Windows Win7/8.1/10 ブラウザ：Edge/Chrome 最新版/Firefox 最新版 ※IE は非対応

※オンラインテストですので、常時接続可能なブロードバンド環境と、タブレットをご使用の方は無線 LAN (Wi-Fi) 環境をご用意ください。

※スピーキングテストは PC・タブレットの内蔵マイク、またはマイク付ヘッドホンのどちらでもご受検いただけます。

②出題範囲

■主に中学校「英語」の学習内容で解答できる出題となっており、「コミュニケーション英語 I」の学習内容は受信技能 (聞く・読む) の理解を促進する範囲で扱っています。

Listening / Reading / Writing / Vocabulary / Grammar：40 分程度、Speaking：10 分程度

(3)難易度設定の考え方・方法

■1,500 名程度を対象としたモニター試験を実施し、各技能、各問題項目の難易度を設定しています。また、リスニング、リーディングは IRT (Item Response Theory：項目応答理論) といわれる統計処理を行ってスコアを算出します。複数回・複数レベルのテストを受検しても同じ指標でスコアを比べることができます。

(4)基礎学力の定着や学習意欲の喚起を図るための工夫

■日常生活や学校などで実際に起こりうる言語使用場面を想定した問題を出題しています。また、各問題に「CAN-DO リスト」に基づいた「タスク」「テキスト」「条件」が設定されており、「使える英語力」が直接的に問われます。そのため、テストのための対策を行う必要はなく、授業での言語活動に近い形で問題に取り組むことができます。さらに、各問題の「トピック」は CEFR レベルや学習指導要領に準じており、受検者の興味関心を喚起するものとなっています。

(5) その他特長

- ・ 問題文はすべて日本語で記載しています。
- ・ CBT 対応のため、時間・場所を選ばず受検可能です。
- ・ 「スピーキングテストのみ」、「発信技能（スピーキング・ライティング）のみ」、「受信技能（リスニング・リーディング）のみ」など、柔軟なご受検が可能です。

II. 結果提供に関すること

(1) 受検者個人への結果提供内容・方法

■ 結果提供内容：受検者各人に個別成績表（①～⑦を記載）を提供します。

- ① 総合スコア：英語 4 技能の総合力を表すスコア
- ② 総合評価：英語 4 技能の総合力を表す CEFR-J レベル
- ③ 技能別スコア：各技能の英語力を表すスコア
- ④ 技能別評価：各技能の英語力を表す CEFR-J レベル
- ⑤ スピーキング、ライティングの観点別評価、語彙・文法の評価
スピーキングの観点別評価
↳ 文法・語彙（Grammar and Vocabulary）
↳ 発音・流暢さ（Pronunciation and Fluency）
↳ 話題構成（Topic Development）
↳ タスク達成（Task Achievement）
ライティングの観点別評価
↳ 文法・語彙（Grammar and Vocabulary）
↳ 構成（Organization）
↳ タスク達成（Task Achievement）
- ⑥ 学習アドバイス
- ⑦ 成績推移 ※CBT 受検の場合のみ

■ 提供方法：

CBT で受検した場合：【約 2 週間後】WEB 上のマイページから個別成績表が閲覧できます。

PBT（S 以外）+CBT で受検した場合：【約 1 カ月後】個別成績表（紙）を団体責任者様にお送りします。

※問題、解答のお渡しはございません。

■ 個別成績表の特長：

特長 1：今後の指導や学習につながる、CAN-DO 視点のフィードバック

技能ごと、英語で何ができるようになってきているか、次のレベルではどこを伸ばすとよいかをフィードバックされます。学習指導要領でも示されている CAN-DO 視点でのフィードバックのため、授業の理解度が把握しやすく、今後の対策も行いやすい内容です。

特長 2：CEFR-J の指標で、日本人の英語力に合った伸長がわかる

総合評価・技能別評価がそれぞれ CEFR-J で示されるため、今後の新しい大学入試に必要なとされる CEFR レベルの中でもどの位置にいるのか、次のレベルになると「英語でどのようなことができるのか」がわかりやすい成績表です。

特長 3：スピーキング、ライティングの発信技能のフィードバックが充実

学校現場での指導が難しいスピーキングやライティングの発信技能では、観点別評価のフィードバックを行います。CEFR/CEFR-J の各レベルで求められる英語力に応じた、語彙や文法、発音や流暢さ、タスク達成の度合いなどを評価。さらに、語彙・文法の出題は、スピーキング、ライティングで必要となる語彙や文法力を問うものとなっています。そこから、知識の土台が不足しているのか、アウトプットの総量が不足しているのかなどもフィードバックされます。

⇒添付資料「01_英語 CAN-DO テスト_個別成績表」

(2) 学校等への結果提供内容・方法

■結果提供内容：

①成績一覧のエクセルデータ：

受検者各人の個別成績データ（総合スコア／総合評価／技能別スコア／技能別評価／スピーキング、ライティングの観点別評価、語彙・文法の評価）をエクセルデータでお渡しします。

※CBTで受検した場合は、管理者向けの団体マイページで団体の受検状況や成績を一覧で見ることが可能です。

②団体全体での成績傾向などをまとめた報告書（原則100名以上のお申込の場合）

└学級・学年別などの概況・分析結果（平均点、得点分布、相関関係など）、課題が多く見られた分野、経年変化など

└分析結果から読み取れる貴校の英語力の特徴、英語対策のアドバイス

└受検者間比較から見える貴校傾向

各スコアは、平均点などの代表値として要約することに加え、スコア間の比較や受験者の分布を確認することができますようにします。

各技能の評価（CEFR-J レベル）は、各レベルでの分布を集計、視覚化することで、技能間の偏りなどの傾向を明らかにします。スピーキング、ライティングでは、観点別評価と語彙・文法の評価をあわせて解釈することで、具体的にどのような対策が効果的なのかをアドバイスします。例えば、インプットとアウトプットのどちらが不足している可能性があるかを明らかにすることができます。

各スコアや評価を母集団（受験者全体）と比較することで、受験校の英語力の特徴を明らかにしたり、経年変化を検証したりすることで、今後の指導への手がかりを提供します。

■提供方法：

CBTで受検した場合：【約1カ月後】①（エクセルデータ）をメールにて、②（紙）を宅配便にてお送りします。

PBT（S以外）＋CBTで受検した場合：【約1カ月半後】①（エクセルデータ）をメールにて、②（紙）を宅配便にてお送りします。

⇒添付資料「02_英語 CAN-DO テスト_団体報告書」

(3) 試験等の結果（正答状況やスコア等）に対する評価の考え方と分析の手法

■レベル2の試験は、「聞くこと」250点満点、「読むこと」255点満点、「話すこと」250点満点、「書くこと」250点満点により評価し、診断結果は、4技能を平均した250点満点の「総合スコア」で表示します。各技能の得点状況によっては、4技能の平均点が250点を超える場合がありますが、その場合の「総合スコア」は250点となります。

■レベル2の試験の4技能の総合評価は、CEFR-Jの「A1.1以下」「A1.2」「A1.3」「A2.1」「A2.2以上」の5段階で示すとともに、何ができるかを記述文で示します。また、各技能の評価も総合評価と同じ5段階で示します。「話すこと」については、「文法・語彙」「発音・流暢さ」「話題構成」「タスク達成」という4つの下位項目の評価を、「書くこと」については、「文法・語彙」「構成」「タスク達成」の3つの下位項目の評価を、それぞれ「★マーク」数を使って4段階で示します。

■スコアと評価の対応については、事前のモニター調査の結果等を踏まえて設定しています。「聞くこと」「読むこと」のスコアは、IRT（項目応答理論）を適用しています。「話すこと」「書くこと」のスコアは、モニター調査の結果を踏まえて、タスクの難易度に応じた得点調整をしています。したがって、同レベルの各回スコア、異なるレベルのスコアを比較することで、学習の成果を把握することができます。

Ⅲ. 運営に関すること

(1)問題の質を確保するための方法

■出題内容の妥当性・信頼性の検証方法：

弊社では、2段階のモニター試験を通し、問題の妥当性・信頼性を検証しております。まず、各テストセットに対し、数十名～数百名のモニター試験を実施。古典的テスト理論、因子分析により、問題ごとの難易度調整、差替・修正などを行います。次に、修正後の各テストセットに対し、数百名規模でのモニター試験を実施します。テスト問題の妥当性を検証し、IRTの統計処理を行うためのデータ収集を行います。

また、各モニター試験の結果に対し、弊社の担当部署の社員、社外の監修者等と検証を行います。

■作問の体制や方法：

作問にあたっては、CEFRのマニュアル類や社外の監修者との協議に基づき、CEFR-Jのレベルごと、技能ごとにテスト設計書を作成しています。執筆や内容検討に際しては、中学・高等学校の英語教員や大学教員、Z会グループの書籍や教材、模試、アセスメント等の経験豊富な執筆者陣と連携して、作問体制を構築しています。また、執筆にあたってはCEFR/CEFR-Jのfamiliarizationを行い、品質向上に努めています。

(2)学校における実施方法

■実施概要：

○学校での実施にあたり、事前に弊社担当から実施に向けてのご説明、当日のタイムスケジュール等の策定を行います。あわせて、事前に対応マニュアルをお渡しします。マニュアルには、当日トラブルが発生した場合の対応も記載しています。

○5名様以上であれば、学年やクラスなど、どのような単位でご受検いただくこともできます。

○学校には、本テストの事前準備、実施当日の運営を行っていただきます。

【PBTの場合】受検票・問題冊子・解答用紙の配布、実施時の監督、音声CDの操作、問題冊子・解答用紙の回収と弊社への送付を行っていただきます。

【CBTの場合】CBT実施環境の事前準備（受検用アプリのダウンロード、事前の動作確認など）、受検票（ログインID/PW）の配布、実施時の監督を行っていただきます。

■実施フロー：

ご検討時	弊社) 弊社担当からのご説明
実施1カ月前まで	貴校) 実施日、実施人数の確定
実施1カ月前まで	貴校) CBT 実施環境の確認 (チェックシートによる確認) 貴校・弊社) 当日のタイムスケジュール等を策定
実施2週間前	貴校) 各校の受検者リスト (学校名、氏名、クラス、出席番号) をデータ でご送付いただきます
実施1週間前	弊社) 実施マニュアル、試験資材を各校様宛にお届けします
実施期間	貴校) 試験実施/欠席者の事後受検/試験資材のご返却

⇒添付資料「03_英語 CAN-DO テスト_実施要項」

⇒添付資料「04_英語 CAN-DO テスト_学校用実施マニュアル」

(3)採点の方法と体制

○弊社グループの定評ある添削指導の実績や人材、システムを基に、採点体制を構築しています。選択式の問題については自動採点を行っています。発信技能は、専門評価者による評価を行っています。ライティング問題については、通信教育の指導で実績のある弊社の専門評価者が評価しています。スピーキング問題については、日本での英語指導経験が豊富なネイティブ教員や、弊社の専門評価者が評価しています。評価者は弊社テストに合格し、複数回の研修を受講したうえで採用に至ります。それぞれ評価者1名の評価で、定期的にサンプル検証を行うことで品質を高めています。加えて、採点の合理化・迅速化に向け、答案のデジタル化による分割採点を実施しています。

○また、発信技能の評価はルーブリックや採点基準に CEFR-J の CAN-DO ディスクリプタを活用しており、評価の妥当性を高めています。また、事前のモニター調査や研修をとおして評価の質を確保しています。

(4)情報管理体制

○株式会社Z会にて、一般財団法人日本情報経済社会推進協会 (JIPDEC) の審査を受け、プライバシーマークを取得しております。弊社でもプライバシーマーク取得の手続き中で、2018年度内に取得予定です。

○弊社の定めた「個人情報保護方針」「個人情報の取り扱いについて」に基づき、本診断に係る情報管理体制を構築し、徹底した情報管理を行っています。

IV. 情報開示に関すること

※下記の「学校等が測定ツールを選択するのに資する情報」について具体的な内容を記載すること。

(1) 障害のある受検者等への配慮

○聴覚に関する配慮事項として、リスニング試験の音声スクリプトの配布を実施しております。また、視覚に関する配慮事項として、CBT の画面では拡大ができる対応をしています。PBT 受検の際には、拡大文字で記載された問題冊子の提供等の対応が可能です。その他の事項についても、ご受検に際しての配慮に努めますのでご相談ください。

(2) 事前／事後学習教材の有無、内容

- オンライン講座「Z会 Asteria 英語 4 技能講座」：『英語 CAN-DO テスト』に準拠した、オンラインの英語 4 技能講座です（有料）。
- CEFR-J 対応リーディング、スピーキング学校用教材：CEFR-J のレベルごとの多読用教材、学校用のスピーキング教材です（有料）。

(3) 学習状況等のアンケートの有無、内容

アンケートは実施していません。

(4) 個人受検の可否

個人でご受検いただくことも可能です。

(5) 問題内容の情報提供

問題内容・解答は非開示としております。

※ただし、ホームページやパンフレットにサンプル問題の掲載有。また、ご検討用にサンプル問題をお渡しすることは可能ですので、弊社までお問い合わせください。

※受検後の復習用として、WEB 上でテストごとの「解説と出題のねらい」が閲覧できます（CBT 受検の場合。PBT 受検の場合は応相談）。

(6) その他

教育委員会経由での実施に関しては、弊社による分析結果に加え、報告書を適宜カスタマイズし、分析・報告いたします。

(様式3)

認定要件への適合性を示す書類等一覧について

事業者名:株式会社Z会ソリューションズ
測定ツール名:英語CAN-DOテスト レベル2
対象教科:英語
測定内容の区分:基本タイプ

I. 出題に関すること

<提出任意の書類等>

書類等の内容	書類等の名称	資料番号	対応する認定基準					
			I.(1)	I.(2)	I.(3)	I.(4)	I.(5)	

II. 結果提供に関すること

<提出任意の書類等>

書類等の内容	書類等の名称	資料番号	対応する認定基準	
			II.(1)	II.(2)
帳票(生徒向け)	01_英語CAN-DOテスト_個別成績表	資料1		○
帳票(学校向け)	02_英語CAN-DOテスト_団体報告書	資料2		○

III. 運営に関すること

<提出必須の書類等>

書類等の内容	書類等の名称	資料番号
実施要項(試験時間、実施方式、実施期間、受検料、標準返却期間等)	3_英語CAN-DOテスト_実施要項	資料3
学校用実施マニュアル	04_英語CAN-DOテスト_学校用実施マニュアル	資料4

<提出任意の書類等>

書類等の内容	書類等の名称	資料番号

IV. 情報開示に関すること

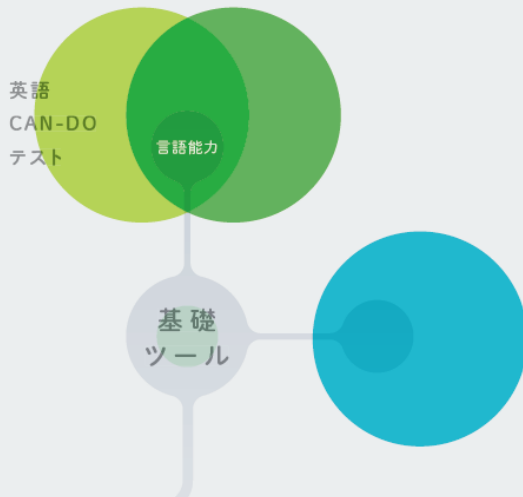
<提出任意の書類等>

書類等の内容	書類等の名称	資料番号

03_英語 CAN-DO テスト_実施要項

基盤学力アセスメント

英語 CAN-DO テスト



「英語 CAN-DO テスト」は、『速読英単語』や『NEW TREASURE』などの英語教育にも定評のある Z 会グループが、新たに開発した「使える英語力」を測るためのテストです。次期学習指導要領や2020年度からの大学入試改革などの議論の中で大きな役割を果たす CEFR (ヨーロッパ言語共通参照枠) とその枠組みを日本の英語教育に適合させた CEFR-J、CEFR・CEFR-J を成績評価に用いているだけでなく、その理念の一つである「英語で具体的にどんなことができるのか」を表した「CAN-DO リスト」に基づいて各技能の出題をすることで、実際の言語使用の場面に根ざした実用的な英語の力を評価することができます。

特長とメリット

1 「使える英語力」をコミュニケーション能力に測る英語4技能テスト

現在、英語の授業ではコミュニケーション能力を総合的に育成することが求められ、大学入試においては「聞く」「読む」だけではなく「話す」「書く」も含めた英語の能力をバランスよく、直接的に評価するための検討が進められています。「英語 CAN-DO テスト」では、日常生活や学校などにおいて受験者が実際に遭遇しうる言語使用場面に基づいた問題に取り組みながら、「知識としての英語力」ではなく「使える英語力」がどのレベルにあるのかを測ります。



2 CEFR-Jで測るから、数カ月、1年間、数年間の伸長が目に見える

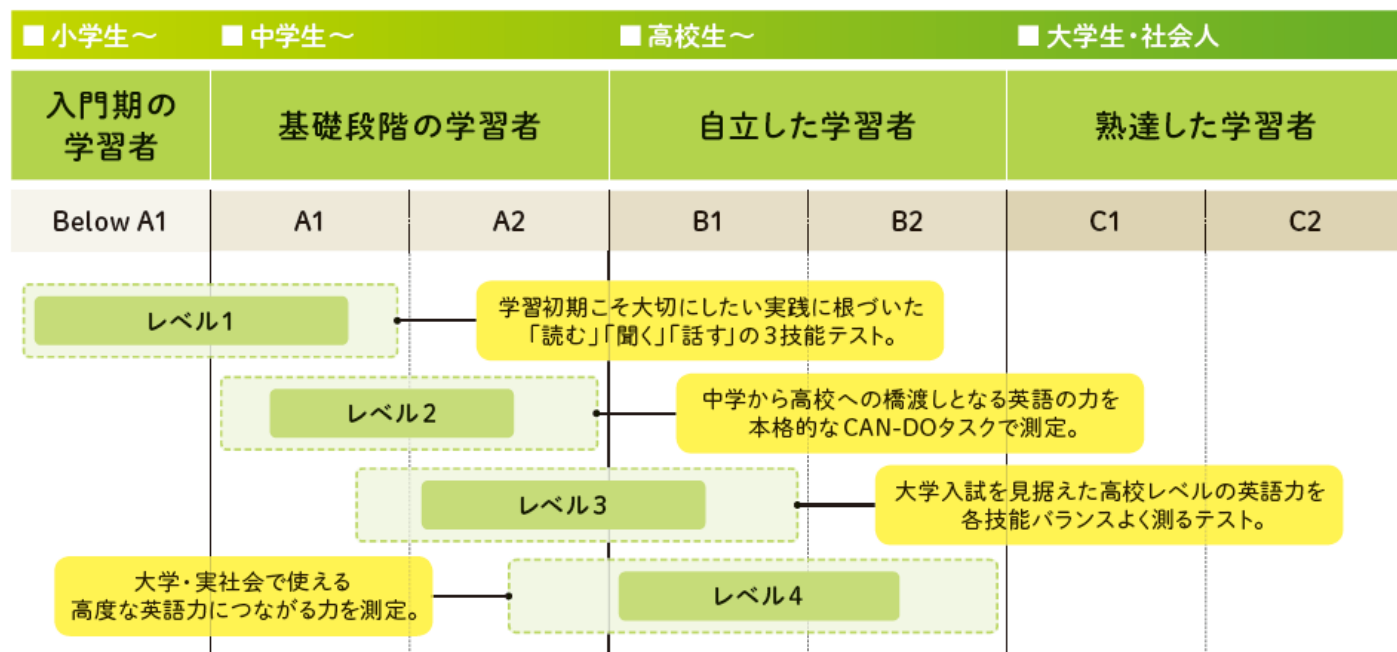
語学のコミュニケーション能力別のレベルを示す国際標準規格としてCEFRが広く活用されつつありますが、ある研究によると8割がAレベルにあるとされる日本の環境では、同じAレベルでも英語のできることに差があり、CEFRの指標だけでは日々の英語力の伸びが見えにくいという現状があります。そのため、本アセスメントでは、学習者が英語力の伸びを実感し、指導者が指導に反映しやすいよう、CEFRを日本の英語教育に導入するための枠組みとして開発されたCEFR-Jによるレベルで英語力を測定します。本テストでは、CEFR-Jの開発者である投野由紀夫先生(東京外国語大学教授)を監修者にお迎えし、CEFR-Jの「CAN-DOリスト」を用いて出題・評価を行います。

CEFR			CEFR-J
Proficient User 熟達した使用者	C2	→ CEFRを もとに、日本の 英語教育の 枠組みに適用	C2
	C1		C1
Independent User 自立した使用者	B2		B2.2
	B1		B2.1
Basic User 基礎段階の使用者	A2		B1.2
			B1.1
	A1		A2.2
			A2.1
			A1.3
	A1.2		
	A1.1		
	PreA1		

3 これからの新入試を見据えた4技能試験対策に、 日常の学習の指針に

2020年度からの新しい大学入試では、英語4技能それぞれの測定を前提に外部検定試験の活用が検討されています。さまざまな特徴・出題形式の4技能試験がある中で、「英語CAN-DOテスト」は、CEFR・CEFR-Jにおけるレベル伸長の段階に沿った出題設計により、それらのテストにつながる英語力をしっかりと積み上げることができます。また、学校でも個人でも好きなタイミングで気軽に受験ができるので、英語学習における低学年からの学習計画を考える上での拠りどころとしてご活用いただけます。

試験の種類と選び方



■ 対象 □ 測定範囲

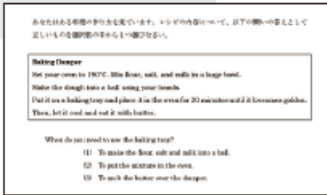
● 試験概要

	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
対象	小学5年生～ 中学1年生	主に中学生	主に中学生～ 高校生	主に高校生～ 大学生・社会人
測定範囲	CEFR Below A1～A1	CEFR A1～A2	CEFR A2～B1	CEFR B1～B2
測定分野	Listening / Reading / Speaking / Vocabulary	Listening / Reading / Speaking / Writing / Vocabulary / Grammar		
回数	年2回※			
試験方法	CBT(対応デバイスがあれば、学校でも自宅でも受験可) PBT(SpeakingはCBTのみの実施となります)			
解答時間	40分	50分	90分	90分
解答形式	Speaking: PC・タブレットでの録音形式 Writing: 記述式(CBTの場合はタイピング) 上記以外の分野: 記号選択式			
問題分量	Listening / Reading: 各8～10問 Speaking: 2～4問 Writing: 1～2問 Vocabulary / Grammar: 各10問			
評価方法	記号選択式: 自動採点 録音・記述式: 専門評価者による評価			
対応デバイス(CBT)	タブレット(iPad OS: iOS9.0以降、Android OS: 5.0以降) PC (Windows Win7/8.1/10) *マイク付きヘッドフォン推奨 *iOSのタブレットでご受験の場合、専用アプリ(無料)のインストールが必要です。 SpeakingテストはAndroidタブレットではご受験いただけません。			

各分野の出題のねらい

※ご要望いただければ、問題見本をお送りいたします。

<p>Listening</p>	<p>音声(会話、スピーチ、公共の場のアナウンス、テレビやラジオの放送など、試験レベルに応じて出題)を聞いて、その内容を問う問題 解答形式: 記号選択式</p>
<p>Reading</p>	<p>英文(手紙・メール、掲示物、インターネット上の記事、書物の一部、マニュアル、図表を含んだ英文など、試験レベルに応じて出題)を読んで、その内容を問う問題 解答形式: 記号選択式</p>
<p>Speaking*</p>	<p>全レベル「発表」「やり取り」それぞれについて出題 「発表」: あるテーマに沿ったスピーチ、プレゼンテーションなどを考えて話す問題 「やり取り」: 相手の発話を聞いて、それに対する応答を考えて話す、または場面設定・会話の目的に即した相手への問いかけを考えて話す問題 解答形式: PC・タブレットでの録音形式</p>
<p>Writing*</p>	<p>ショートメッセージ、メール、手紙、エッセイなど、場面設定・目的に即して要件をまとめたり、自分自身の意見を伝えたりする問題 解答形式: 記述式(CBTの場合はタイピング)</p>
<p>Vocabulary・Grammar*</p>	<p>Speaking・Writingで出題したタスクで頻出の語彙や関連した表現、文法の理解を問う問題/発信技能の弱みが語彙や文法の知識にあるのか、知識はあってもアウトプットが不足しているのかなどがわかります 解答形式: 記号選択式</p>



Reading レベル3



Speaking レベル2

※Speaking単独のご受験も承ります。 ※レベル1ではWriting・Grammarの出題はありません。

個人成績表

試験の結果は、ウェブ上のマイページもしくは紙の成績表(紙版で受験された場合)で確認できます。スコアに加え、英語力の総合評価、各技能の評価がCEFR-Jレベルで判定され、技能ごとにどのように学習を進めればよいかが客観的にわかります。



成績表

- 総合スコア: 英語4技能の総合力を表すスコア
- 総合評価: 英語4技能の総合力を表すCEFR-Jレベル
- 技能別スコア: 各技能の英語力を表すスコア
- 技能別評価: 各技能の英語力を表すCEFR-Jレベル
- Speaking、Writingの観点別評価
- Vocabulary、Grammarの評価
- 学習アドバイス
- 成績推移

ご活用事例

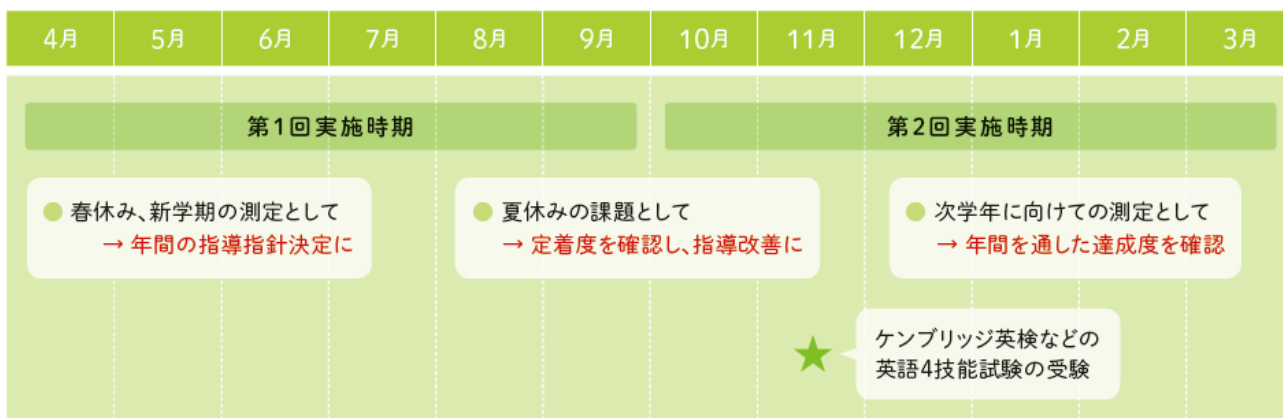
入学・進級時のクラス分け、
生徒ごとのレベル把握、
年間指導計画策定の参考に

教科書学習の達成度を
定期的に測定し、
生徒へのフィードバックや
授業改善の指針に

他の英語4技能試験の
受験対策、
受験レベルの把握に

●ご活用の一例

年2回、継続してご受験いただくことで、達成度や指導内容の確認を定期的に行い、生徒に客観的な指標をフィードバックすることができます。*年1回からのご受験も可能です。



監修者のことば

英語汎用枠 CEFR-J を活用する意義とは

東京外国語大学大学院 投野 由紀夫 教授



CEFR-JはCEFRを基準に日本の英語教育に特化して構築された汎用枠です。10年以上にわたる大規模な科研費プロジェクトの成果として2012年3月に一般公開されました。CEFR-JはAレベルを5段階に細分化し、かつPre-A1レベルを設けて初級学習者の指導と評価を確実にすることに注力しています。本家CEFRのAレベルのディスクリプタへもデータを提供するなど国際的な連携もしています。

現在、CEFRの世界的な影響力を受けて、文部科学省も2020年の新学習指導要領改訂を視野に改革を行っています。小学校への英語の教科導入、大学入試の4技能テスト導入といった今までにない大胆なプランで、小中高をつなぐのがCAN-DOによる指標形式の目標です。これらの総合的な改革がうまく調和して機能すれば、日本の英語教育は大きく変わる可能性があります。

大事なことは、CAN-DOの示している「できること」を先生が工夫して教室内の言語活動として実現することと、4技能を実際に使って子供たち、生徒たちがどのくらいできるようになっているかを的確に読み取ってあげることです。このために今後、評価は英語4技能をコミュニケーションに測る方向に大幅に舵を切る必要があります。その意味で、今回の「英語CAN-DOテスト」はCEFR-Jで診断する初めての4技能テストとして画期的なものです。CBTにより短時間で安価に受験でき、CEFR-Jの細分化されたレベルできめ細かい診断評価に使用でき、フィードバックで生徒たちの「できる度」を把握することができます。小中高の接続を統一基準で診断し、弱点補強を着実にすれば英語力は伸びていく。「英語CAN-DOテスト」がそれを確実に保証してくれると期待します。

学校・学習塾・企業などで、受験希望者が5名以上の場合、団体でのお申し込みを承ります。

※「学校」「学年」「クラス」「部活動」など、様々な単位の団体にてご受験が可能です。

※受験者の方の申込手続きの取りまとは、原則として各団体の責任者の方に行っていただきます。

実施スケジュール

年間を通して、いつでもご受験が可能です。

受験前後の学習教材などもご提案させていただきますので、お気軽にお問い合わせください。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
年2回の試験			第1回実施時期						第2回実施時期			
年3回の試験		第1回実施時期				第2回実施時期				第3回実施時期		

※ CBTの場合、実施期間中にお申し込みいただいた試験は、テスト実施期間の最終日から4カ月後まで受験可能です。

※ 「課題発見・解決能力テスト 発展レベル」は年1回の実施です。

お申し込み～受験の流れ

	CBT (PC・タブレット)	PBT (紙)
① お申し込みについてのご連絡	<p>団体の責任者の方より、以下をご連絡ください。</p> <p>ご所属の団体名(学校名、塾名、学年など) / 責任者の方のお名前 / 実施希望のアセスメント種類、レベル、CBTまたはPBTのご要望 / 受験者数 / 実施日・実施期間</p> <p>※事前にご不明な点を説明させていただきますので、まずはご連絡ください。</p>	
↓	<p>担当より連絡を差し上げます。</p> <p>実施3週間前までに、受験者情報データのご提出、受験料のお支払方法の確定をお願いいたします。</p>	
② ご登録手続き	<p>ご登録手続き後、団体責任者用のログインID・パスワードをお渡しします。</p> <p>「団体管理者用マイページ」の閲覧が可能になります。</p> <p>※ CBT実施の場合、対応デバイス・通信環境・推奨機種をご確認ください。</p>	—
↓	<p>受験者の登録後、受験者全員に対して個別に受験票を発行し、管理者の方宛てにお送りいたします。</p> <p>受験票には、CBT実施に必要なログインID・パスワードなどが記載されていますので、必ず実施前に受験者にお渡しください。</p>	<p>実施1週間前までに試験資料(問題冊子、解答用紙、運営マニュアルなど)をお送りします。</p>
③ 試験資料の送付		
↓	<p>CBT実施の場合、受験者はそれぞれ基盤学力総合研究所のオフィシャルサイトから、受験者個人用のマイページにログインし、試験を受験します。</p>	<p>受験後、解答用紙、試験資料をご返送いただきます。</p>
④ 試験実施		
↓	<p>即日～約2週間(ご受験いただくアセスメントにより異なります)で、「受験者用マイページ」から個別成績表が閲覧できます。</p>	<p>約1カ月(ご受験いただくアセスメントにより異なります)で、個別成績表(紙)をお送りします。</p>
⑤ 成績確認		
↓	<p>責任者の方は、「団体管理者用マイページ」より、受験者の受験状況や、受験後の成績表(個別成績表・受験者情報一覧)などを随時閲覧できます。</p>	—
⑥ 受験者の状況確認		
↓	<p>上記マイページで閲覧できる情報に加え、</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 団体全体での成績傾向などをまとめた報告書 ● 成績一覧のエクセルデータを、受験期間終了から1カ月後を目安に、別途納品いたします。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 団体全体での成績傾向などをまとめた報告書 ● 成績一覧のエクセルデータを、受験終了から1カ月半後を目安に、別途納品いたします。
⑦ 団体用成績データ・報告書の納品		

※報告書のご提供は100名以上のお申し込みの場合に限らせていただきます。

基盤学力アセスメントシリーズ LIPHARE [リファール] 受験料 (税抜)

試験の種類	レベル	主な対象者	団体割引価格 (税抜)		
			CBT (1回)	PBT (1回)	
				スピーキングあり	スピーキングなし
英語 CAN-DOテスト	レベル1	小	3,500円	3,900円	2,300円
	レベル2	中	3,900円	4,300円	2,700円
	レベル3	高	3,900円	4,300円	2,700円
	レベル4	大・社	3,900円	4,300円	2,700円
日本語運用能力テスト	基礎	小	1,600円	1,700円	
	標準	中・高	2,100円	2,200円	
	応用	高・大	2,700円	2,800円	
課題発見・解決能力テスト	標準	中	3,200円	3,300円	
	応用	高・大	3,200円	3,300円	
	発展	大・社	4,200円	4,300円	
行動能力・興味関心 セルフチェック	タイプA	中・高	1,000円		
	タイプB	高・大・社	1,000円		

※CBT(=computer based testing)、PBT(=paper based testing)。

※上記の受験料は標準価格です。ご受験いただくアセスメント数、受験人数、回数などに応じた団体価格についてはご相談ください。

※「英語 CAN-DOテスト」をPBTでご受験いただく場合、スピーキング試験(CBT)をセットにすることができます。

※「英語 CAN-DOテスト」では、スピーキング試験のみをご受験いただくこともできます。

レベル1~4 団体割引価格: 各1,800円(税抜)

基盤学力アセスメントシリーズ『LIPHARE (リファール)』に関するお問い合わせ

株式会社Z会ソリューションズ

東京営業所 03-5296-2830 / 大阪営業所 06-6195-8550

(様式4)

測定しようとする資質・能力の具体的内容について

事業者名:株式会社Z会ソリューションズ

測定ツール名:英語 CAN-DO テスト レベル2

対象教科:英語

測定内容の区分:基本タイプ

測定しようとする資質・能力の 具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又 は事項	科目名及び内容
【CEFR-J A1.2: Listening】 趣味やスポーツ、部活動などの身近なトピックに関する短い話を、ゆっくりはっきりと話されれば、 <u>理解</u> することができる。	【設問数】 1～2問程度 【出題形式】 選択式	聞くこと	中学校学習指導要領 外国語 2 内容 (1) 言語活動 ア 聞くこと (オ) まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取ること。
【CEFR-J A1.2: Listening】 日常生活の身近なトピックについての話を、ゆっくりはっきりと話されれば、場所や時間等の <u>具体的な情報を聞きと</u> ることができる。	【設問数】 1～2問程度 【出題形式】 選択式	聞くこと	中学校学習指導要領 外国語 2 内容 (1) 言語活動 ア 聞くこと (イ) 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聞き取ること。
【CEFR-J A1.3: Listening】 ゆっくりはっきりと話されれば、自分自身や自分の家族・学校・地域などの身の回りの事柄に関連した句や表現を <u>理解</u> することができる。	【設問数】 1～2問程度 【出題形式】 選択式	聞くこと	中学校学習指導要領 外国語 2 内容 (1) 言語活動 ア 聞くこと (イ) 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聞き取ること。 (オ) まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取ること。

(様式4)

測定しようとする資質・能力の 具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は 事項	科目名及び内容
<p>【CEFR-J A1.3: Listening】 (買い物や外食などで) 簡単な 用をたすのに必要な指示や説 明を、ゆっくりはっきりと話さ れれば、<u>理解</u>することができ る。</p>	<p>【設問数】 1～2問程 度 【出題形式】 選択式</p>	聞くこと	<p>中学校学習指導要領 外国語 2 内容 (1) 言語活動 ア 聞くこと (イ) 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報 を正確に聞き取ること。 (オ) まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取る こと。</p>
<p>【CEFR-J A2.1: Listening】 ゆ っくりはっきりと放送されれ ば、公共の乗り物や駅や空港の 短い簡潔なアナウンスを<u>理解</u> <u>する</u>ことができる。</p>	<p>【設問数】 1～2問程 度 【出題形式】 選択式</p>	聞くこと	<p>中学校学習指導要領 外国語 2 内容 (1) 言語活動 ア 聞くこと (イ) 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報 を正確に聞き取ること。 (オ) まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取る こと。</p>
<p>【CEFR-J A2.1: Listening】 学 校の宿題、旅行の日程などの明 確で具体的な事実を、はっきり となじみのある発音で指示さ れれば、<u>要点を理解</u>することが できる。</p>	<p>【設問数】 1～2問程 度 【出題形式】 選択式</p>	聞くこと	<p>中学校学習指導要領 外国語 2 内容 (1) 言語活動 ア 聞くこと (イ) 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報 を正確に聞き取ること。 (オ) まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取る こと。</p>
<p>【CEFR-J A1.2: Reading】 簡 単なポスターや招待状等の日 常生活で使われる非常に短い 簡単な文章を読み、<u>理解</u>するこ とができる。</p>	<p>【設問数】 1～2問程 度 【出題形式】 選択式</p>	読むこと	<p>中学校学習指導要領 外国語 2 内容 (1) 言語活動 ウ 読むこと (エ) 伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応 じること。</p>

(様式4)

測定しようとする資質・能力の 具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は 事項	科目名及び内容
【CEFR-J A1.2: Reading】身近な人からの携帯メールなどによる、旅の思い出などが書かれた非常に短い簡単な近況報告を <u>理解</u> することができる。	【設問数】 1～2問程度 【出題形式】 選択式	読むこと	中学校学習指導要領 外国語 2 内容 (1) 言語活動 ウ 読むこと (エ) 伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じること。
【CEFR-J A1.3: Reading】簡単な語を用いて書かれた、スポーツ・音楽・旅行など個人的な興味のあるトピックに関する文章を、イラストや写真も参考にしながら <u>理解</u> することができる。	【設問数】 1～2問程度 【出題形式】 選択式	読むこと	中学校学習指導要領 外国語 2 内容 (1) 言語活動 ウ 読むこと (ウ) 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。 (エ) 伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じること。
【CEFR-J A1.3: Reading】簡単な語を用いて書かれた、挿絵のある短い物語を <u>理解</u> することができる。	【設問数】 1～2問程度 【出題形式】 選択式	読むこと	中学校学習指導要領 外国語 2 内容 (1) 言語活動 ウ 読むこと (ウ) 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。
【CEFR-J A2.1: Reading】簡単な語を用いて書かれた人物描写、場所の説明、日常生活や文化の紹介などの、説明文を <u>理解</u> することができる。	【設問数】 1～2問程度 【出題形式】 選択式	読むこと	中学校学習指導要領 外国語 2 内容 (1) 言語活動 ウ 読むこと (オ) 話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること。

(様式4)

測定しようとする資質・能力の 具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は 事項	科目名及び内容
【CEFR-J A2.1: Reading】簡単な語を用いて書かれた短い物語や伝記などを <u>理解</u> することができる。	【設問数】1～2問程度 【出題形式】選択式	読むこと	中学校学習指導要領 外国語 2 内容 (1) 言語活動 ウ 読むこと (ウ) 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。 (オ) 話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること。
【SP】自分の趣味や特技などの <u>自己紹介</u> をすることができる。	【設問数】1問程度 【出題形式】録音式	話すこと	中学校学習指導要領 外国語 2 内容 (1) 言語活動 イ 話すこと (イ) 自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること。
【SI】日常のやりとりにおいて簡単な <u>質疑応答</u> をすることができる。	【設問数】1問程度 【出題形式】録音式	話すこと	中学校学習指導要領 外国語 2 内容 (1) 言語活動 イ 話すこと (エ) つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けること。
【SP】前もって発話することを用意した上で、 <u>描写</u> したり、 <u>意見を言う</u> ことができる。	【設問数】1問程度 【出題形式】録音式	話すこと	中学校学習指導要領 外国語 2 内容 (1) 言語活動 イ 話すこと (オ) 与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること。
【W】身近なことや自分の経験について、 <u>短い文章</u> を <u>書く</u> ことができる。	【設問数】1問程度 【出題形式】記述式	書くこと	中学校学習指導要領 外国語 2 内容 (1) 言語活動 エ 書くこと (エ) 身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ちなどを書くこと。

(様式4)

測定しようとする資質・能力の 具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は 事項	科目名及び内容
【W】招待状、手紙、メモ、メッセージなどを <u>簡単な英語で書く</u> ことができる。	【設問数】1問程度 【出題形式】記述式	書くこと	中学校学習指導要領 外国語 2 内容 (1) 言語活動 エ 書くこと (オ) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。

(様式5)

サンプル問題について

事業者名:株式会社Z会ソリューションズ
測定ツール名:英語 CAN-DO テスト レベル2
対象教科:英語
測定内容の区分:基本タイプ
サンプル問題番号(大問番号):大問1


出題科目	中学校学習指導要領 外国語																								
出題のポイント	【CEFR-J A1.3 Listening】(買い物や外食などで)簡単な用をたすのに必要な指示や説明を、ゆっくりはっきりと話されれば、理解することができるかを見る。																								
主として問う能力	<table border="1"><thead><tr><th>小問番号</th><th>知識・技能</th><th>思考力・判断力・表現力等</th></tr></thead><tbody><tr><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table>	小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等		○																			
小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等																							
	○																								
出題形式	<table border="1"><thead><tr><th>小問番号</th><th>選択式</th><th>短答式</th><th>記述式</th></tr></thead><tbody><tr><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table>	小問番号	選択式	短答式	記述式		○																		
小問番号	選択式	短答式	記述式																						
	○																								
主として問う技能(英語のみ)	<table border="1"><thead><tr><th>小問番号</th><th>聞く</th><th>読む</th><th>話す</th><th>書く</th></tr></thead><tbody><tr><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table>	小問番号	聞く	読む	話す	書く		○																	
小問番号	聞く	読む	話す	書く																					
	○																								
サンプル問題	<p>問4 あなたは家族で海外旅行に来ています。食事をしに立ち寄ったレストランで、お店の外で食事をしたいと伝えました。店員の話の内容について、選択肢の中から正しいものを1つ選びなさい。 <input type="text" value="4"/></p> <p>① You can join the party outside the restaurant. ② You have to wait if you want to eat inside the restaurant. ③ You do not have to go outside in order to see the scenery.</p>																								
解答例	<p>【解答】③</p> <p>【スクリプト】</p> <p>M: Welcome to Martin's Kitchen. You would like to sit outside the restaurant? We're sorry, but you cannot eat outside today because it is reserved for a party. Instead we have some free tables inside. Our restaurant has a large window and you can enjoy the beautiful scenery even from inside the building. You are sure to like it!</p>																								
(参考)学習指導要領の関連項目	<p>2 内容</p> <p>(1) 言語活動 ア 聞くこと</p> <p>(イ) 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聞き取ること。</p> <p>(オ) まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取ること。</p>																								

サンプル問題番号(大問番号):大問2

出題科目	中学校学習指導要領 外国語				
出題のポイント	【CEFR-J A1.2 Reading】身近な人からの携帯メールなどによる、旅の思い出などが書かれた非常に短い簡単な近況報告を理解することができるかをみる。				
主として問う能力	小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等		
		○			
出題形式	小問番号	選択式	短答式	記述式	
		○			
主として問う技能(英語のみ)	小問番号	聞く	読む	話す	書く
			○		
サンプル問題	<p>問3 エイジは、友だちのケイコから次のようなメッセージを受け取りました。エイジがケイコに送った返事の中の空所に当てはまる内容として正しいものを、選択肢の中から1つ選びなさい。 12</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>Keiko:</p> <p>I saw a new movie yesterday.</p> <p>It was a story about a cute dog. It was really exciting!</p> <p>You should see it, too.</p> <p>I'll tell you about it tomorrow.</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>Eiji:</p> <p>That sounds interesting!</p> <p>OK, let's talk about _____ tomorrow!</p> </div> <p>① your dog ② the movie ③ the e-mail</p>				
解答例	【解答】②				

(参考)学 習指導要 領の関連 項目	2 内容 (1) 言語活動 ウ 読むこと (エ) 伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じること。
-----------------------------	---

サンプル問題番号(大問番号):大問3

出題科目	中学校学習指導要領 外国語			
出題の ポイント	【SI】 日常のやりとりにおいて簡単な質疑応答をすることができるかをみる。			
主として 問う能力	小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等 ○	
出題形式	小問番号	選択式	短答式	記述式 ○
主として 問う技能 (英語の み)	小問番号	聞く	読む	話す ○
サンプル 問題	<p>あなたはうちに遊びにきた友だちと話をしています。友だちの質問に答えなさい。この問題は、話す内容を準備する時間はありません。チャイムの音に続いて 20 秒以内で解答しなさい。</p> 			
解答例	<p>【解答例】 Thanks. Tea, please, with milk and sugar.</p> <p>【スクリプト】 Which do you want, orange juice or tea?</p> <p>【評価基準】 「文法・語彙」「発音・流暢さ」「タスク達成」の3観点をそれぞれ0～5点で評価します。各観点において、問題のCEFR-Jレベル相当のパフォーマンスだった場合、「3」の評価となります。</p> <p>「文法・語彙」はその種類の豊富さおよび正確さの観点から、「発音・流暢さ」は通じやす</p>			

	<p>さ、正確さ、発話スピードや言いよどみの観点から評価します。本問題では、音声などで慣れ親しんだ表現を「かたまり（チャンク）」として使うことができている場合、母語の影響はあるもののある程度聞き取ることができており、言いよどみがあっても文レベルの発話ができている場合「3」となります。</p> <p>「タスク達成」は、タスクで指定されている内容を伝えられているかという観点から評価します。指定された内容が不足なく伝えられていると「3」の評価となります。この問題では、友人に感謝の気持ちを示すなど会話であることを意識することができていたり、どちらを飲みたいかの理由等を付け加えたりできている場合「4」「5」の評価となります。</p>
(参考)学習指導要領の関連項目	<p>2 内容</p> <p>(1) 言語活動 イ 話すこと</p> <p>(エ) つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けること。</p>

サンプル問題番号(大問番号):大問4

出題科目	中学校学習指導要領 外国語																								
出題のポイント	【W】招待状、手紙、メモ、メッセージなどを簡単な英語で書くことができるかをみる。																								
主として問う能力	<table border="1"> <thead> <tr> <th>小問番号</th> <th>知識・技能</th> <th>思考力・判断力・表現力等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等			○																		
小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等																							
		○																							
出題形式	<table border="1"> <thead> <tr> <th>小問番号</th> <th>選択式</th> <th>短答式</th> <th>記述式</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	小問番号	選択式	短答式	記述式				○																
小問番号	選択式	短答式	記述式																						
			○																						
主として問う技能(英語のみ)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>小問番号</th> <th>聞く</th> <th>読む</th> <th>話す</th> <th>書く</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	小問番号	聞く	読む	話す	書く					○														
小問番号	聞く	読む	話す	書く																					
				○																					

<p>サンプル 問題</p>	<p>問1 あなたは、外国人のクラスメイトのデイビットとメッセージのやりとりをしています。デイビットからのメッセージに対して、<u>2～3文程度</u>で適切な返答を書きなさい。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>David:</p> <p>How was your day?</p> <p>What did you do today?</p> </div> <div style="border: 1px solid black; height: 60px; margin-top: 20px;"></div>
<p>解答例</p>	<p>【解答例】 I've been really busy today. I did a lot of work during the daytime but still have many things to do.</p> <p>【評価基準】「文法・語彙」「タスク達成」の2観点をそれぞれ0～5点で評価します。各観点において、問題のCEFR-Jレベル相当のパフォーマンスだった場合、「3」の評価となります。</p> <p>「文法・語彙」はその種類の豊富さおよび正確さの観点から評価します。本問題では、A1レベルの言語材料の一部を誤りがあっても規則として認識して使うことができている場合、「3」となります。</p> <p>「タスク達成」は、タスクで指定されている内容を伝えられているかという観点から評価します。指定された内容が不足なく伝えられていると「3」の評価となります。本問題では、自分がしたこと・感じたことの詳細がより詳細に書かれていたり、メッセージのやりとりとしてふさわしい返答や相手への質問が書かれていたりする場合「4」「5」となります。</p>
<p>(参考)学 習指導要 領の関連 項目</p>	<p>2 内容</p> <p>(1) 言語活動 エ 書くこと</p> <p>(オ) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。</p>